



SC相模原

一杯からはじめよう！脱・使い捨てAction 1/2



Story

SC相模原は、麻布大学をはじめとするクリーンパートナーズスポンサーらと共同で、2016年よりスタジアムでのカップ使用において、紙コップから繰り返し洗浄して使用できる『リユースカップ』への置き換えに取り組んできた。しかしながら、2020年。新型コロナウイルス感染症により、リユースカップの扱いにリスクが生じる為、紙コップ使用に戻らざるを得なくなる。「カップを回収・洗浄する人にコロナのリスクがあるならば、逆に、マイタンブラー製の呼びかけのチャンスなのではないか」麻布大学の学生が主体となり、マイタンブラー製の導入の提案がなされ、リモートでの会議を重ね準備が行われる。「どんなにいいことをしていても、興味を持ってもらえなければ、手に取ってもらえなければ、はじまらない」スタジアムで先行のPRをしファン・サポーターの声を聴き、デザインをし、人に手に取ってもらうための試行錯誤を学生が行った。リユースカップ使用の習慣は年々高まっていたものの、ファン・サポーターに対するクラブからの「意義・意図・取り組みの及ぼす効果」の周知は十分とは言えず、SC相模原は学生にその点のわかりやすいPRを盛り込むことを依頼する。学生たちは、SC相模原ホームゲームにてブースを出店しPRを実施した。森のタンブラーの実物展示とともに、ポスター展示とチラシを配布し活動を紹介した。相模原市総合政策部政策課 SDGs 推進室と協力し、SDGsのゴールを的にしたサッカーのキックターゲットも展開。子どもたちの心を掴み、多くのファン・サポーターの関心を得ることに成功した。「来場者のみんなが環境への意識が高いことを感じた。予想以上だった。これからも、森のタンブラーの普及活動に参加して、

環境問題への意識をより高めてもらえるよう活動していきたい」(学生)「今回、自分でマイタンブラーに飲料を注ぎ、タンブラーを自分で洗浄するというスタイルを紹介し、SC相模原サポーターに、楽しみながら脱プラスチック、脱 使い捨ての大事さを体感してもらった。学生には、企画立案と実践を重ね、自分自身の自信と将来への可能性につなげてほしい」(麻布大学教員)

イベントのグッズを、スタジアムや会場から自宅や職場に持ち帰り日常使用をする機会が多い。しかし、イベント会場に再度それを持参し、スタジアムや会場で繰り返し使用するとう例は少ない。年間十数回あるサッカーのホームゲームとなると、どれくらいの効果になるだろうか。SC相模原ホームゲームのフードパーク説明会にて、相模原ケータリング協会の飲食出店者たちにSC相模原はこう説明した。「名前は“タンブラー”だが、これはコップじゃないんです。皆さんの商品と森タンを組み合わせるとしたらどうなるだろうか想像してみてください」

SC相模原のスタジアムで森のタンブラーを手にする親子を見かけた。お父さんはなみなみ注がれたビールの入った森タンを手にし、子どもはいちごのシロップのかかったかき氷の入った森タンを手にしていた。「学生達の取り組みで興味を持った。

スポーツと食は密接で、そこから環境配慮への意識が芽生えたら良いと思います。」(SC相模原サポーター)

今後は、スタジアムや家庭・職場だけではなく、街のまつりや商店などへの波及も考えられる。飲食店やコーヒーショップ、コンビニエンスストアなど、このカップの使用の可能性は広い。

そう、このプロジェクトは始まったばかりなのである。

活動詳細情報はこちら


https://www.azabu-u.ac.jp/topics/2020/1022_31827.html



SC相模原

一杯からはじめよう！脱・使い捨てAction 2/2



活動場所

相模原ギオンスタジアム

カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ



協働者

企業、学校、行政

協働者名

麻布大学、アサヒビール株式会社、相模原市

